

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195800024		
法人名	医療法人やわらぎ		
事業所名	グループホームみどり野の郷		
所在地	北海道空知郡南幌町栄町1丁目1番20号		
自己評価作成日	平成25年12月24日	評価結果市町村受理日	平成26年2月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kanl=true&JigyosyoCd=0195800024-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年1月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の日常生活を穏やかに過ごして頂ける様に心がけている。家事参加やレクリエーション、季節に合わせた外出行事など、通常の日常生活を大切に、そして行事やレクリエーションとのバランスがとれるようなサポートできるように心がけています。役場や町民にとっては唯一の食品店が近所にあり、目の前が消防署、警察、郵便局があり安心して暮らして立地条件にあります。母体である協力医院が隣接しており、24時間の支援体制を確保しています。入居者様、ご家族様働いているスタッフの安心へと繋がっている。同建物内に老健やデイサービス訪問看護、ヘルパーステーション、居宅事業所、サービス付き高齢者向け住宅があり、多機能に対応できるようになっています。同建物内に他事業所があることで慰問や行事への参加し交流の場となっていたり、情報交換がスムーズに行える利点があります。新設の為スタッフは新人職員が多いですが、ヘルパーの資格を取得したり、介護福祉の資格を目指し知識、技術の向上に励んでいます。また、オープンの際には法人内の他のグループホームでの研修期間や出来る限り外部の研修へ参加できるように努めています。行事のバリエーションや入居者様の要望に一つでも多く対応できるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームみどり野の郷」は、役場や町立病院、郵便局や派出所など公共機関が集まっている南幌町の中心街に立地している開設2年目のグループホームである。1、2階には、在宅サービス事業所やサービス付き高齢者向け住宅があり、3階がグループホームになっている。母体である協力病院が隣接していることで医療面の支援体制が確立されており、利用者や家族の安心感に繋がっている。室内は清潔感のある落ち着いた配色で、趣のあるお洒落な造りになっている。開設時に着任した所長と主任は日々協力し、本部の指導の下、同法人経営のグループホームの運営を参考にしながら常に向上心を持って真摯な姿勢で職員の育成や運営に取り組んでいる。法人のバックアップ体制も充実しており、各職員は法人研修に定期的に参加しながら学びを深めている。各種マニュアル、書類なども整備されている。隣接している老人保健施設と合同で避難訓練やお祭り、ボランティアの慰問なども行われており、利用者は多くの行事に参加しながら地域住民や外部の人と交流を深めている。毎月、利用者担当職員が手書きのお便りで各利用者の様子を報告しながら家族と情報交換を行い、所長と主任を中心に、本人の意向に沿って温かな支援が出来るように熱心に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に自分だったら、自分の家族だったら、どう思うかを忘れず、入居者様の立場にたって考えられるように理念の共有と入居者様の支援に努めています。	「支え合い・豊・安らぎ」という理念の中に、地域社会の一員として生活を再編し、コミュニティーの中での自己実現の支援を行うという地域密着型サービス内容が含まれている。日常業務の中で理念を再確認しながら、実践に向けて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通じて地域の情報提供して頂いています。社会福祉会主催の音楽祭への参加、同法人のお祭りへの参加により地域との交流があります。町内のイベントへの参加等を通じて交流を広げていきたいと思っています。	法人施設合同のお祭りで町民と交流したり、買い物や散歩の時に、近隣住民や商店の方と話しをする機会がある。昨年は、ボランティアの児童民謡なども楽しんでいる。小学校の運動会予行練習に招待されたが出席できなかったので、今後は見学を通して交流を深めていきたいと考えている。	地域の幼稚園と交流できるように働きかけを行っていく意向なので、その取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	面会時等に最近の様子の報告や不安の思っていることはないか会話の中で聞き取りや相談に応じています。地域貢献に至る段階では至っておりませんが、これから少しずつ地域との繋がりを築いていきたいと思っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の状況、活動報告等を行っています。活動内容に対しての意見や情報提供のご協力を頂いています。	町内会役員なども参加して2か月毎に開催し、地域交流や災害対策などについて意見交換している。会議案内と議事録は全家族に送付しているが参加が少ないため、事前にテーマを設定して参加が難しい家族の意見収集を行っていく意向である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議やグループホーム連絡会議の際に相談やアドバイスを頂いています。メールによる連絡事項のやり取りを行っています。	所長は、認定調査の申請などで役場を訪問したり、分からない事があればすぐに電話やメールで問い合わせさせて課題を解決している。福祉課の担当者が運営推進会議に参加しているため、相談しやすい関係が築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の研修や外部の研修へ参加。参加できなかった職員がいる場合は資料にて伝達している。玄関の施錠につきましては3Fに位置していることや防犯も含め内側のドアを施錠していますが、ご利用者様の言動を察知して束縛しないように努めている。	法人として「禁止の対象となる具体的な行為」を含む、身体拘束廃止マニュアルを整備している。外部研修や法人研修に参加しているが、内部研修を行う機会が少なく、禁止行為11項目について、職員の理解は不十分な面もある。玄関ドアは利用者の意向に沿って開錠し、職員が同行して自由に外出できるように支援している。	「禁止の対象となる具体的な行為」11項目について内部研修などを行い、更に全職員で理解を深めるように期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の研修や外部の研修へ参加。参加できなかった職員がいる場合は資料にて伝達している。		

グループホーム みどり野の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の研修や外部の研修へ参加。参加できなかった職員がいる場合は資料にて伝達している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時は契約書・重要事項説明書に沿って説明を行い、疑問、質問に答え確認しながら説明しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人内の事務所に苦情、意見箱を設置しています。又ご家族面会時に最近の入居者様の状況を報告し、情報の共有に努めるようにしています。	家族の来訪時に本人の様子を話して相談したり、以前の状況を聞きながら家族の意向や思いを聞き取るように工夫している。家族からの意見や要望は連絡ノートに記載しているが、今後は個人別に記録して、更に情報を共有していく意向である。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、ミーティングを行い職員の意見や提案してもらい、業務についてや入居者様のケアについて意見を反映していけるように努めている。	所長は、年間2回の個人面談の他、日頃から職員と話す機会を作り全職員で運営に取り組んでいる。各職員が会議で発言しやすいように事前にテーマを伝えたり、参加できない職員の意見を聞いて全員の意見が反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員が自己目標を上半期・下半期に分け設定してもらい、面談や資料に基づき把握に努めている。給料水準、労働時間は法人との連携を計り行っています。新人職員が7割程度にて随時困っている事や不明点について話し合えるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修への参加や外部の研修への参加をシフト作成時の組み込み研修への参加をしやすいようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1回定期的に町内のグループホームの連絡会議を地域包括支援センターにて開催しています。情報交換を行いサービス向上に取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様の面談を行い、困っている事や不安な事、要望の聞き取りを行っています。また、入居前にホームの様子をご本人様やご家族様と見学して頂き、その時の反応や様子を観察し、段階を踏んで入居の受け入れに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、困り事や不安、要望についての聞き取りを行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談や今まで使用していたサービス業者からの情報提供により必要な支援を把握、検討に努めている。法人内にある老健や病院等と連携を図り支援できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で家事等、出来る事や出来そうな事を入居者様と一緒に、お手伝いしていただいた際は言葉でお礼を伝えるように心がけている。できなくなってしまったことやしたくない事は個々に異なる事に配慮した関わり方に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	変化があった場合はご家族様への報告や相談を行っています。面会時に最近の入居者様のご様子をお伝えするように努めています。センター方式のB-1～B-4のシートをご家族様にご協力頂き、生活歴や習慣からケアに繋げられるように努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や親せきの方の面会は多くみられています。面会時はゆっくり時間を過ごして頂きたく思っております。散歩しながら町内の店に行ったり、同建物内の顔馴染みの入居者様や職員との関係が継続出来る様に努めています。	以前の仕事関係の知人が来訪したり、法人施設の知人と行き来している利用者もいる。職員の送迎で馴染みの美容室に出かけたり、南幌温泉や馴染みの場所にドライブに出かけている。家族と一緒に、お墓参りや子供の家に出かける事もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者様同士での外出の支援や入居者様同士で良い人間関係が築くことが出来るように個々の性格や状態の把握に努め、場合によっては職員が間に入りコミュニケーションがスムーズに進むように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	まだ契約終了者はいませんが退去後の方向性について情報提供を行い、ご本人様やご家族様が不安にならないようなアプローチをしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の思いや暮らしの希望や意向の把握に努めているが、困難な場合はご家族やご本人様と相談して行くように努めている。日々の中で聞き取って介護計画に反映できるように努めている。	殆どの利用者は会話で意思疎通が可能であるが、筆談や表情、仕草などから意向を把握する事もある。分からない時は、家族に確認して把握している。新しい情報は定期的に蓄積している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談やご家族様にセンター方式のB1~B4のシートの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境についてご協力して頂き把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の動作の中で心身状況や有する力について把握できるような関わり、観察に努めています。気づいた事はミーティング等で情報共有しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的又は状態変化時、モニタリング、カンファレンスを開きご家族の要望を取り入れながら介護計画を作成しています。	定期的な介護計画の見直しは、利用者担当職員と計画作成担当者を中心に全職員で評価を行い、家族と本人の意向を踏まえて6か月毎に行っている。今後は、介護計画と日々の記録が更に連動した記録になるように取り組んで行く意向である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や介護計画に基づいた実践を行い、生活記録に記入。毎日のミーティングで報告し、情報の共有を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主治医や他事業所との連携を図り多機能なニーズに対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同建物内のデイサービスや老健の慰問や行事の参加や町内で行った音楽演奏会を通じて地域との交流をしているが活動的ではありません、今後地域との繋がりに努めていきます。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診察の他、隣接の協力医で定期的な検査、身体的状況変化時の指示が受けられ、安心して暮らして頂けるよう支援しています。又、契約前にご家族様やご本人様へ了承を得ています。他科受診はご家族様の対応をお願いしていますが、事情によっては職員が同行しています。	かかりつけ医や専門医の受診は主に家族が支援しているが、健康状態に応じて職員も同行している。家族が受診に同行する時は口頭で状況を伝えたり、書面を持参してもらい、適切な医療が受けられるように支援している。受診状況は、個別に記録している。	

グループホーム みどり野の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日協力医院へ書面にて特変事項の報告しています。訪問看護が同建物内にありますので必要時には相談や必要な処置を依頼しやすい環境になっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院と入院中の情報の交換と相談に努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	需要事項説明の際に説明は行っています。必要になった時再度ご説明と話し合いの機会を持ちながら支援していきたいと思っております。	利用開始時に、「重度化に関する対応指針」を説明している。主治医の判断の下、状況に応じて家族と方針を話し合い、可能な限り看取りも行う意向である。常時医療行為が必要になった時は、対応が難しい旨を伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生防止及び発生時の対応マニュアル、緊急連絡網の作成、緊急時の対応の研修に全員ではありませんが参加しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回夜間想定避難訓練を実施し、同建物内の老健職員との協力体制を確認や避難経路等の確認を行っています。防火・救命実務研修に夜勤職員を主に5名受講しています。	消防署の指導の下、法人施設合同で夜間の火災想定避難訓練を行っているが、地域住民は参加していない。職員は救急救命訓練を順次受講し、法人施設に災害備蓄品を整備しているが、今後事業所独自での保管も検討する意向である。	運営推進会議などで地域住民の役割分担を明確にし、近隣住民も参加した避難訓練を実施するように期待したい。また、火災以外の災害時における具体的な対応について、職員間で確認する機会が持たれるように期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格の尊重や否定しない言葉かけや対応ができるように職員同士で意識するように努めている。	新人研修で接遇を学び、ケアを行う時は利用者の意志を尊重した言葉がけで支援している。その日に記録する書類は居間にいる利用者の見えない場所に置き、名前が分からないように工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の特徴を捉え思いを表出しやすいような関わりや自己決定に結びつくように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務割は作成しているが、受診や買い物等その方に合わせて業務の調整を行っている。調整が難しい場合はご本人様へ説明し、後日対応できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活習慣やご本人様の好みを把握して声掛けや支援している。化粧水や髭剃りなど以前の生活習慣で行っていたことが継続出来る様に支援している。		

グループホーム みどり野の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嗜好に合わせて代替え品を用意している。食形態も個々に合わせて食べやすいようにカットする等の対応。野菜の皮むきや盛り付け、食器の後片づけを一緒に行っています。	法人の栄養士作成の献立を中止し、誕生日や行事には利用者の食べたいメニューを取り入れたり、外食で好みの料理を選んでもらっている。利用者と一緒に、ホットプレートでどら焼きや焼きそばをすることもある。職員は食事を共にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量の確認を生活記録に記入して個人の状況の把握に努めています。ムセやすい方にはトロミや食形態を食べやすいようにして個々に合わせた食事や水分を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行って頂けるように声掛けや必要な介助を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活記録に排泄チェックを随時記入して排泄状況の把握に努めている。失禁の多い方は声掛けやトイレ誘導を行っている。トイレ内動作については安全に配慮した見守りやナースコールの使用の声掛け等個別に対応しています。	全員の排泄状況をチェックし、昼夜ともトイレでの排泄を支援している。状況に応じて、夜間にポータブルトイレを使用する事もある。生活の区切りで排泄を促し、半数ほどの利用者は自力での排泄が可能で、ほぼ布パンツで過ごしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時、ヨーグルトを提供している。水分量の調整と毎日体操を行い便秘の予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	同性介助が出来る様にスタッフの勤務の調整を行っている。その為曜日は固定はありますが、体調やタイミング、ご本人の希望に合わせて変更は行っています。	日曜日を除く午後の時間帯に入浴を行い、順番などの希望を聞きながら週2回を目途に入浴を支援している。利用者の状態に沿って職員が2人で介助したり、必要に応じて足浴や清拭も行っている。入浴中はゆっくり入れるように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	意思に添って、体調や疲労度に合わせて休息して頂いています。夜間眠られないかに対して温かい飲み物の提供や見守りを行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人一人に薬剤情報を確認もらい、変更時も含め用途や副作用についての理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に合わせてた装飾の作成や家事、手作業ができるように支援している。		

グループホーム みどり野の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別の対応としては春～秋の天気の良い日に近所のスーパーやコンビニへ散歩も兼ねて外出しました。花見やイチゴ狩り、紅葉狩り等季節に合わせて外出できるように事前に行事計画を立てています。病院の受診の外出はご家族と職員が同行して対応しています。	週に数回は周囲の散歩や買い物を楽しんでいる。積極的に外出を計画し、季節の外出行事や数人でドライブなどにも出かけている。隣接している老人保健施設の催しに参加する機会が多く、野球の好きな利用者はファイターズの試合観戦に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお金の管理できる能力を維持していくことは大切と考えております。あらかじめご家族やご本人様への説明のもと限度額を3千円とさせていただいています。買い物時に使用していただく方や使用はしていませんが所持していることで安心されている方がいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の中にはご家族様に電話で対応して頂くことで精神状態が落ち着く場合があります。ご家族への御協力頂き、電話対応をしています。ご自分では電話が困難な方はご家族へ伝えてほしいと要望があった際は職員が対応しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温の調整や空調を確認し過ごしやすいように配慮している。各居室の電気についてはスイッチ使用方法が難しく不便に感じている入居者様は職員で対応している。トイレの電気が自動なので便利な反面で不慣れから戸惑ってしまう方もいますが、声掛けや都度対応しています。	玄関から奥まった空間に食卓テーブルとソファ席を配置し、廊下は居室に沿って回廊型になっている。室内の共用空間は、落ち着いた配色で全体的に統一感がある。廊下には利用者の暮らしが分かる写真を掲示し、季節の装飾などで品よくスッキリと飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間は食事のスペースとくつろぎのスペースになっています。くつろぎのスペースではテレビ、ソファを配置しています。場合によっては活動時に使用したり目的用途に応じて活用しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様やご家族様と事前に居室のスペース確認して頂き持ち込める範囲で馴染みの家具や持ち物を持参して頂き、落ち着いて過ごして頂けるようにしている。	居室には馴染みの家具類を持ち込み、タンスの上などに家族の写真、小物類、花などの装飾品が置かれている。中には事業所の色調に合せたお洒落な居室もあり、落ち着いた雰囲気づくりになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には各自の表札をつけてわかりやすいようにしています。トイレの電気や洗面所の自動は馴染みがないため出来ないことへ繋がってしまっている場合がありますが職員の声掛けや対応により自立した生活が送れるようにしている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム みどり野の郷

作成日：平成 26年 2月 11日

市町村受理日：平成 26年 2月 13日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	近隣住民や地域の学校との交流が少ない。昨年度は運動会の予行練習の見学や町内の神輿の見学を予定していましたが実行できていません。	年間の予定を決めて実行する。	1-年間の予定の作成。主に小学校(運動会や学芸会の予行練習) 2-関係機関への協力依頼や日程調整	平成26年 3月～ 平成27年 3月
2	6	身体拘束をしないケアの実践については外部研修や法人内の研修には参加できているが、ホーム内での研修や伝達が不十分で、「禁止の対象となる具体的な行為11項目」については全員が理解できていない。	「禁止の対象なる具体的な行為」11項目について、職員が全員が理解できるようにする。	1-内部研修の年間の予定の作成。 2-研修の資料や他職種への助言や協力依頼。	平成26年 3月～ 平成27年 3月
3	35	災害対策について。消防署の指導のもと、法人施設合同で夜間想定避難訓練を行っているが、地域住民は参加していない。防火・救命実務研修に夜勤職員5名受講、日勤職員2名は受講できていない。法人施設での備蓄は整備しているが、グループホーム独自の備蓄は整備していない。火災以外の災害時の避難訓練はおこなっていない。	1、近隣住民が参加できる避難訓練の実施。 2、ホーム内の備蓄の整備。 3、火災以外の災害時避難訓練の実施。	1-訓練実施日が決定したら事前に運営推進会議の中でご報告し、参加のご協力をお願いしていく。 2-必要な備蓄について検討し、整備していく。 3-内部研修の年間予定の中に火災以外の災害時の場面を想定した具体的な対応を職員間で確認できるように組み入れる。	平成26年 3月～ 平成27年 3月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。